全　員　協　議　会

日　時　　令和５年６月２７日（火）
　　本会議終了後
場　所　　議場

付議事項
　視察報告について
　・吉永美子議員（無所属）
　・矢田松夫議員（無所属）
　・会派創政会

政務活動報告

2023 年 6 月 27 日

・議員名　吉永美子（公明党）
・活動日　2022 年 11 月 29 日～30 日
・内　容　①　国土交通省及び経済産業省への陳情
　　②　富山市におけるガラスの取り組みに関する視察

① 国土交通省及び経済産業省への陳情について

髙松秀樹議長、河口修司事務局長と国土交通省及び経済産業省を訪問した。これには、公明党から平林晃衆議院議員が同席した。

国土交通省では「ＪＲローカル線の維持・確保についての要望書」を古川康政務官に手渡し、経済産業省では「鉱害被害者救済に関する要望書」を羽田由美子石炭課長に手渡し、それぞれ陳情を行った。

② 富山市におけるガラスの取り組みに関する視察について

〔視察先〕富山市ガラス美術館、ストリートミュージアム、富山ガラス工房、富山ガラス造形研究所、富山駅構内のガラス作品等

〔所　感〕富山市とガラスのつながりの歴史は古く、300 年以上の伝統を受け継ぐ富山の売薬に由来し、明治、大正期には、ガラスの薬瓶の製造が盛んに行われ、戦前は富山駅周辺を中心に、溶解炉をもつガラス工場が 10 社以上あったといわれている。その後、昭和 60 年の「市民大学ガラス工芸コース」の開講を皮切りに、「ガラスの街とやま」への取り組みが開始した。平成 8 年に「ガラスの街角づくり事業」をスタートさせ、ストリートミュージアムでの積極的なガラス作品の活用を行ってきた。その後、2015 年 8 月、ガラスの取り組みの集大成として、6 階建てで図書館との複合施設「富山市ガラス美術館」が開館している。また、富山ガラス工房が「富山のガラスと新酒フェア」を開催し、「Ｍｙぐいのみをつくろう！！」と呼びかけた吹きガラス体験等を行っていることは、本市においてもガラス体験を推進し、かつ、地域経済の活性化につながるのではないかと強く感じたところであり、当時の経済部長と文化スポーツ推進課長に紹介させていただいた。

〔提　言〕これまでも、ガラス文化の推進について一般質問を行ってきた。ガラス美術館を設置する予定のない本市では、富山市のストリートミュージアムのように、ガラス作品が市民の目により多く触れるよう、作品の展示を拡大していくべきである。また、全国で唯一の公立ガラス専門教育機関である富山ガラス造形研究所を有する富山市は、多くのガラスの専門家を輩出しており、本市においても、その恩恵を得ているところである。その点からも、富山市のように、ガラス造形作家がガラスを生業として確実に自立できるように推進していくべきである。

①

国土交通大臣への要望書を提出

経済産業大臣への要望書を提出

②

富山市ガラス美術館

富山市ストリートミュージアム

明石市視察報告書（無所属議員・矢田松夫）

1、視察日　　令和５年１月24日（火）

2、視察先　　明石市・明石市議会「会派・明石かがやきネット」

3，視察内容　明石市の子育て支援について

4，報告事項　①視察の目的

明石市におけるこども支援について実情を調査

②視察先の状況

明石市は、人口30万５千人の中核市であり、泉房穂市長が１１年から就任をしている。泉市長が就任後、明石市独自の５つの無料化は、ア：高校３年生まで　イ：中学校給食費　ウ：公共施設の入場　エ：０歳児のおむつお届け、見守りは、すべて所得制限がなく、その基本は、先に（すでに）税金や保険料を徴収（預かっている）との認識があり、そのために行政が責任をもって子どもへの「寄り添う支援」を実施すべきと、子どもを核とした街づくりをしている。

③考察

明石の未来を担うこどもを安心して産み育てるまちをめざして～明石市こども総合支援条例を制定し、子どもを核とした街づくりを推進している。そのことが、結果として、まちのにぎわいや９年連続の人口増（増加率は中核市全国１位）出生率１，７％や税収増など、経済も好転している。

こども施策に「力」を入れることにより市外からは「安心感」が生まれ明石市へ移り住むことにより、にぎわい・財源増により、新たなサービスの提供となっており、好循環を生み出している。

6，パピオスあかし５Ｆ［あかしこども広場］視察見学

子どもと保護者がおもちゃで自由に遊んだり、親同士、子ども同士で交流や情報交換、市内最大規模の「プレイルーム」と８，０００冊の本が並ぶ「こども図書室」子育てに関する「相談ルーム」などができる場所が「明石駅」前の民間複合施設に設置されている。市役所子育て支援課が運営しているが、一部の施設は民間委託で運営している。

注）明石市への行政視察を申し込むと、１年先まで視察「受諾」の見通しが立たないため、会派への視察となった。

視察報告書

令和５年６月２７日

１　視察日、視察先、事項

（１）令和５年５月１５日（月）　島根県雲南市
地域運営組織（ＲＭＯ）の取り組み

（２）令和５年５月１６日（火）　島根県安来市　え～ひだカンパニー㈱
地域運営組織（ＲＭＯ）の取り組み

の受講

２　視察委員　　松尾数則、伊場勇、福田勝政、古豊和惠、宮本政志、森山喜久

３　報告事項

（１）島根県雲南市

【視察の目的】

島根県雲南市の地域運営組織（ＲＭＯ）の取り組みについて先進地視察

【視察先の状況】

平成６年に市町村合併を行い、面積は５５５㎢。地域運営組織は自主組織が市内に 30 組織あり、小学校区域単位で編成。

・役割がかぶっているところをケアしていこう
・地域の課題は地域で
・考え方として１世帯１票　⇒　一人１票制に
・地元はどこか。自分のふるさとはどこか　⇒そこが拠点
・交流センターの指定管理として任せる
・公民館の生涯学習の枠を外している
・実態：事務局が主導で動いている。常勤非常勤職員は自主組織で雇用。
・地域づくり担当職員の配置。個別の支援、正規職員のスキルアップにつなげる
・スケールメリットを使う。常勤スタッフ体制を持つ　⇒自治会では困難な事を解消
・福祉関係：子どもへの取組が多い

【地区計画】

・地区計画：各組織で５ヶ年計画で、組織が自主的につくっている
・地域でのアンケートを行うと 9～7 割の返答 感度が高い
・３年越しに検証 変えていくところは思い切って取り組む
・現状：核となる方の平均年齢 60～70 歳
・アイデア出しが重要。アイデアが出るように協議体を成熟していくため
　市から何も言わない。取組の発表会をし、地域同士で励ます体制を作る
・どの地域でも積極的に会長をしたい人は少ないが、地域を守っていきたいという思いがあって一生懸命やってくれている。

【予算】

・地域づくり活動等交付金 平均 1,000 万円。７～８割は人件費に充当
・予算（交付金）：人件費は均一にし、高齢者が多いところは上乗せ、色々な要素を取り

入れる。規模に応じて 700 万円～2000 万円
・交流センターの指定管理料は数１００万で人件費は含まれていない
・「人口が減っても暮らせていけるように。」
【事例】
・水道局との委託契約。検診を受託し毎月訪問
・高齢者台帳の作成。福祉カード、お願い会員困っている人、おまかせ会員、お世話ができる人

【考　察】
研修を行った視察先の地域運営組織（RMO）の取り組みは、本市でも進んでいる地域運営組織（RMO）の先進地事例である。
市が中心ではなく、各地域の中心となる人（平均年齢は 60～70 歳）が、皆からアイデアが出るよう協議体を育成してきており、また取組の発表を行うことによって、お互いが切磋琢磨し、地域同士で励ます体制を作っている。
山陽小野田市でも地域運営組織（RMO）の取り組みを進めるうえでも、予算の確保、市と地域の人材育成が必要だと感じた。

（２）島根県安来市　えーひだカンパニー㈱
【視察の目的】
島根県安来市のえーひだカンパニー㈱の地域運営組織（RMO）の取り組みについて先進地視察
【視察先の状況】
2016 年 8 月から株式会社として比田地区で活動開始。比田地区の人口は 400 世帯、1,000 人余りで、安来市役所まで車で 45 分かかり、高校生からは寮生活を送る子ども達が多い。盆踊りや運動会、文化祭、観光客も見に来る田植え祭りがシンボルイベント。
【地域ビジョンが出来るまで】
・地域ビジョンを１年かけて制作
・比田地区の活性化を目的に募集した地域おこし協力隊がキーポイントで、2016 年に来た女の子で雰囲気が大きく変わった。
・アンケート調査を行った回答率は 90％で、10 年後に比田に居ると思いますか？の問いに「はい　55％」
・世代別ワークショップで小学生、中学生、高校生、若手、中堅、高齢者等５つの世代でチーム分けをし、話し合うテーマは統一。「地域の課題、いいところ、比田がこうなったらいいな」を話し合う。
地域住民で話し合うきっかけ、人材育成にもつながった。
・全体ワークショップは全世代が参加。地域ビジョンづくりへの気持ちを高め、具体的なアイデアを得る目的で実施。参加者は 120 人。人と人とのつながりが広がり、みんなの得意分野、人材を発見・発掘できた。
1469 のアイデアが出て、88 までみんなで絞った。そのうち 44 事業は形となった。
【本格始動】
・2016 年 3 月に地域ビジョンが完成し、2016 年 8 月に「え～ひだカンパニー」を立ち上げ、当初の会長は議員で、2017 年 3 月 1 日に株式会社へ

・会社化を選択した理由として、人が代わっても継続するしくみ、社会的信用力の高さ、責任（社会的責任、株主への責任）。
困ったことは、福祉系の補助金がとりにくくなった。
・株主へのリターンは株主優待をしている。株主 107 人で大口株主はあまり文句を言わないので助かっている。
・組織総務部、生活環境部、比田米プロジェクト部、ひだキッチン部、地域魅力部、温泉事業部で活動をしている。
・高校生が紹介動画を自主的に作成してくれた。
・総勢 73 人、40～50 歳が活動の中心。どうやったのか？という問いに、口伝えで誘っていった。協力者の青年団のリーダーが若手を誘ってくれた。市職員がとても協力的で、県の中山間担当も良くしてくれている。
・子ども達に、比田は人間関係が近すぎるけど、それが良いと思ってもらいたい。
【地域おこし協力隊】
・受入実績　卒業・定住　男性　家、農地、空き家の再生
卒業：定住　女性　レンコンづくり、ひだキッチンで週３で働いている。
結婚し、子どもも比田住民
卒業：移住　女性　トマト農家に。一人っ子のため岡山の実家に戻る
卒業：移住　男性　家族で来たが、さらに山奥に引っ越して行った。
・現在、現役隊員はいない

【考　察】
地域づくりのポイントとして、①種をまき続ける（未来志向）、②失敗を恐れず挑戦し続ける（前向き）、③頼る。教えてもらう。堂々と真似をする（学ぶ）、④地域の若者が楽しそうにしていたら、地域内外から若者が引き寄せられる（楽しむ）と言われていた。
持続可能な地域づくりをめざす上で、以上のことを参考にし、役立てていきたい。